

## 令和7年度第2回第2期廿日市市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議会議結果（書面開催）

### 議事

第2期廿日市市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

### 委員意見等提出期間

令和8年3月6日（金）～3月16日（月）

### 意見・質問の内容及び回答（要約）

この度の改訂について、委員から以下のとおり意見があった。

#### 【計画期間の変更に関して】

（意見・質問）

- ・ これまでは年度区切りであったところ、「令和3（2021）年から令和8（2026）年9月末まで」に変更になったため、始期がわかりにくいように思う。「令和3（2021）年4月から・・・」と月も入れてはどうか。

（回答）

- ・ 第2期総合戦略については、策定時期が令和3（2021）年7月であるが、予算との連動やKPIの評価期間を一定にすることでの正確な進捗管理を踏まえ、実質的な施策の開始時期である年度当初に遡って適用することとしており、始期についても明確にするため、「令和3（2021）年度から令和8（2026）年9月末」とする。

#### 【「厳島神社・世界遺産登録30周年記念事業」に関して】

（意見・質問）

- ・ 「改めて観光地宮島としての存在感を高める」とあるが、現時点で、存在感が低いというエビデンスはあるか？ また、何故、オーバーツーリズムの問題が生起している状況で、さらに、存在感を高める意義は何か？

（回答）

- ・ 「世界遺産」であることが常態化（当たり前の状態）しているということであり、「改めて」深く認識するということ、決して「低い」という認識ではない。

また、現状では、世界的な他の観光地と比べても、「オーバーツーリズム」により、常態的に対応不可避な問題が発生しているわけではなく、関係団体や地域の協力により、様々な未然防止や抑制の取組実施により対応できている。

なお、単に多くの観光誘客につなげるのではなく、宮島の文化を深く理解し、

宮島観光をともに守り伝えていく観光客・ファンを獲得するため、ブランド力を維持・強化するものである。

(意見・質問)

- ・ 誘客を推進＝増加ということで、地域経済のさらなる活性化を図ることは、宮島地域への負担を増すことにつながる。量的拡大ではなく、宮島での観光消費額を抜本的に高める施策こそ、必要と考えるがどうか。

(回答)

- ・ 人口減少が進展する中で、国内観光客の確保には一定の誘客策は必要である(2026年の宮島来島者(国内)は前年から横ばい)。令和8年度を初年度とする「廿日市市観光振興基本計画」において、「量と質のバランス」を考慮することを念頭にした施策を展開することとしており、単に観光客数の増加を目的とせず、宿泊誘客や滞在時間の延長につながる取組、また、観光サービスの質向上、高付加価値化の推進など、観光消費の拡大を目指す。

(意見・質問)

- ・ 地元宮島は、「国内外からの誘客を推進し、地域経済の更なる活性化を図る」ことを望んでいるのか？宮島地域だけに稼がせ、それを廿日市全体で利用するような過度な依存を伸長させるだけにならないか。

(回答)

- ・ (地元からは様々な声があるが、)宮島観光協会をはじめ、島内の関係団体や事業者により組織された「厳島神社世界遺産登録30周年記念事業実行委員会」(会の目的にも誘客の記載あり)において既に4回委員会を開催し、機運も高まっており、本事業の趣旨や目的は理解されているものと認識している。また、本事業は単に宮島のみへの誘客を図るものではなく、これを契機に他の地域の観光スポット、市全体の認知度を高め、誘客につなげていくねらいもある。

(意見・質問)

- ・ 世界遺産のことは知っているけれどモンサンミッシェルとの姉妹都市であることは聞いたことがある程度にとどまっているのではないかと。廿日市市民も巻き込んだ記念事業の開催など強化できるとよいのではないかと。

(回答)

- ・ 世界遺産登録30周年は、市民が世界遺産宮島の魅力や価値を再発見し誇りを持ってもらう(シブックプライドを醸成する)と共に、その魅力や価値を国内外へ発信する機会と捉えており、今後、具体的に様々な事業を企画・実施する際に、より多くの市民を巻き込むことのできる記念事業やイベント開催などを検討する。

(意見・質問)

- ・ 市広報（動画）で、ユーチューバー等及び在島外国人（宮島を故郷と思う日系フィリピン人・ベトナム人子弟もいます。）を活用してはどうか。

(回答)

- ・ ご提案の趣旨や内容の詳細が分からないため、現状では明確な回答はできないが、本事業の趣旨・目的に合致し、実行委員会や関係団体等との合意等が得られる取組・内容であれば可能と考える。

**【基本目標 1・施策 2・小施策②に関して】**

(意見・質問)

- ・ 基本目標 1 施策 2 小施策②の中で宮島に関連する項目が多数あり、かつ重複する点もあることから、次期総合戦略に向けては一定の整理が必要ではないか。

(回答)

- ・ 第 3 期廿日市市まち・ひと・しごと創生総合戦略においては、基本目標 2 の「未来への挑戦で、地域経済の魅力・活力を創出する」のもと、めざすまちの姿を「はつかいちらしさ」を活かした挑戦により、地域経済において新たな価値が生まれている。」としており、施策として、「地域の観光資源の魅力を活かした経済循環の拡大」を掲げている。

具体的な方向性を、「観光客の来訪・滞在と観光消費の拡大の促進」、「観光客の受入体制の整備」、「地域も満足できる観光の実現」としており、その中で、はつかいち未来ビジョン 2035 に掲げる、「まちづくりの基本理念」及び「まちの将来像」の実現を目指すために、はつかいち未来ビジョン 2035 の基本計画に位置づけられた施策の中から、地方創生に関する取組を抽出し、戦略的に対応する施策群として、また、国の支援の活用も踏まえ、整理し再構成することとする。

**【観光交流エリアにおける木育体感施設及び公園・緑地等の整備に関して】**

(意見・質問)

- ・ 「木育体感施設や公園・緑地等の施設を整備」が、どのような見込みをもって、観光客と市民の交流を促進させ得るのか、また、この整備が本当に市民の地域への愛着、誇りの醸成を図ることができるのか？ 根拠を示してほしい。

(回答)

- ・ 木育体感施設では、市民も観光客も参加できる各種イベントを定期的を開催するほか、隣接する広大な公園、緑地等においても、週末を中心に地域団体等による各種イベント（マルシェ、朝市等）が開催されることなどを想定しており、それらの取組を通じて市民と観光客の交流が促進されるものとする。

また、木育体感施設については、建物は原則木造とし、内装材や遊び場の遊具等においても積極的に木材を使用するほか、本格的な木工体験や本市の地域

資源である「けん玉」の歴史や文化に触れることができるスペースを整備することとしており、本市が「木のまち」であることを認知していただくとともに、観光交流エリアに気軽に訪れていただけるスポット（公園、緑地等）を市が整備することで、市民の利用頻度が上がり、愛着を持っていただける場所となることで廿日市市に対する愛着や誇りの醸成にも寄与するものと考えている。

なお、このことは「第2期廿日市市まち・ひと・しごと・創生総合戦略」で掲げるめざすまちの姿である「そこ！にしかない魅力と住みやすさを感じるまち・はつかいち」の実現に対しても効果的な施策の一つである。

#### （意見・質問）

- ・ 日本での生活の根幹を支えてきた木の文化に触れ、体験してもらえるような施設「木の文化館」を整備してはどうか。手を挙げる会社もあるのではないかと。

#### （回答）

- ・ 「木育体感施設」については、建物は原則木造、内装材や遊び場の遊具等においても積極的に木材を使用するほか、本格的な木工体験や本市の地域資源である「けん玉」の歴史や文化に触れることができるスペース等を整備する予定で、観光交流エリアを訪れる市民や多くの観光客に対し「木のまちはつかいち」をPRする拠点にしていきたいと考えている。

#### （意見・質問）

- ・ 廿日市市の模型や動画、イベント案内も一覧できるような「はつかいち案内館」を整備してはどうか。そこでは、日本最古の石器が見つかった冠高原の情報も必要だと思いませんか。

#### （回答）

- ・ 観光交流エリアには市外から多くの観光客の来場が見込まれていることから、「木育体感施設」の一部において、観光案内所（または観光案内機能）の設置を検討している。

#### （意見・質問）

- ・ 廿日市市は長期療養型病床数が全国平均の2.8倍で充実しているが、裏返せば一人暮らしでは生活出来ない厳しい環境下といえる。内陸部からも通える所でワンストップ相談や支援を受け、子、孫達と共に新機能都市を満喫してもらうのはどうか。医療・福祉・地域支援の拠点となる「ワンストップ相談窓口」を整備してはどうか。

#### （回答）

- ・ 観光交流エリアにおいて市が公共施設等の整備を予定している「木のまち観光交流拠点（仮称）もくたまパーク」は、観光客のみならず市民の皆さんにも日頃から訪れていただける場所となるよう計画を進めているところであり、具体的な施設としては、事業候補者が進めるエリアとの相乗効果を図る観点からも、「木育体感施設」や「公園・緑地等」、広域観光の交通結節点となる「交

通広場」を検討しており、医療・福祉等の施設を整備する予定はない。

**(意見・質問)**

- ・ 「Be Supporters!」アプリを作り、被災地支援に向かった全国のボランティアのように、過疎地の農林業や生活を支えるボランティアやアルバイトを募り、新機能都市と内陸部の間を送り迎えをしてはどうか。

**(回答)**

- ・ ご提案にあるようなアプリを導入する予定はないが、中山間地域の活性化に向け、市全体で様々な視点から取組を推進していく。

**【宮島の歴史編さんに関して】**

**(意見・質問)**

- ・ 「地域的連帯感を醸成し、ふるさと意識・市民意識の高揚と市民生活・文化の向上を図る。」とあるが、歴史編さんが、これらのことを生み出すために何をするかを検討し、提示することが必要ではないか。

**(回答)**

- ・ 地域の歴史はそこに暮らす住民のアイデンティティの核となるものであり、歴史・文化を知り、郷土愛をはぐくむために、地域の歴史を明らかにし、まとめることが重要だと考えている。  
宮島の歴史編さん事業において、編さん過程で収集した資料等について、広く市民に公開し、生涯学習及び学校教育等での活用を図り、地域づくりや、まちづくりなどへ生かしていきたいと考えている。

**(意見・質問)**

- ・ 「…編さんする」ととどめるのではなく、編さん過程において得られた調査の結果を随時広く発信していくということも追加した方がよいのではないか。

**(回答)**

- ・ 「宮島の歴史」編さん基本方針においても、編さん過程で収集した資料等について、広く市民に公開し、まちづくり、生涯学習及び学校教育等での活用に努めることを目的としている。  
長期間にわたる事業であるため、編さん過程の段階から、広報紙やホームページなどでの発信に加え、小冊子の発刊や講演会の開催など、今後、検討する。

**(意見・質問)**

- ・ 「厳島神社・世界遺産登録30周年記念事業」に述べたような視点「①市広報（動画）とユーチューバー等及び②在島外国人（宮島を故郷と思う日系フィリピン人・ベトナム人子弟もいます。）の活用」も加え、全国・全世界に発信したいものです。

**(回答)**

- ・ 宮島が積み重ねてきた歴史とその価値を守り、正しく継承していただく主体は、島民や市民だけでなく、世界から宮島に来訪される観光客も想定している。多言語版の発刊についても、宮島の歴史編さん委員会において、議論したいと考えている。